

出張報告書

令和 8 年 3 月 31 日

会派名 公明クラブ
会長 永本 浩子 様

出張者氏名 永本 浩子

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和8年3月25日（水） ～ 令和8年3月27日（金）〔3日間〕						
出張概要	①	月日	3月26日	市町村名	東京都	会場	リファレンス西新宿
		目的	地方議員研究会主催のセミナーに参加するため				
		テーマ	①議会質問の基礎 ②生成AIチャットGPTの基礎				
	②	月日	3月27日	市町村名	東京都	会場	リファレンス西新宿
		目的	地方議員研究会主催のセミナーに参加するため				
		テーマ	①財政問題の取り上げ方 ②人口問題の取り上げ方				
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

＜生成AI活用セミナー 参加報告書＞

公明クラブ 永本浩子

日時 : 令和8年3月26日(木) 10:00~12:30 13:30~16:00
27日(金) 10:00~12:30 13:30~16:00

会場 : リファレンス西新宿大京ビル (東京)

講師 : 宮本 正一 元 寝屋川市議会議員、日本公共経営研究所代表

1 議会質問の基礎

本テーマでは、そもそもの議会質問の基礎として、宮本先生考案の「質問の木」をもとに、「根」となる質問の背景、「幹」となる市の総合計画等の裏付けを確認したうえで「枝」となる質問に持っていく、という質の高い質問づくりの考え方を学びました。

単発的な質問ではなく、背景や目的を明確にし、各種計画や財政状況といった裏付けを持たせることが重要で、市民ニーズを的確に捉えること、質問するタイミングも大切であることを学びました。

また、質問は簡潔に、論点を拡散させず、曖昧な答弁ではなく、具体的な実現時期と指標を引き出せるような自分の質問の「型」をつくることで、説得力と実効性のある質問につながることを実感しました。

今後は、自分なりの「質問の木」と「型」を作りながら、網走市の皆さまの声を政策につなげる質問づくりに活かしてまいります。

2 生成AI（チャットGTP）の基礎

生成AIについては、「チャットGTP」をはじめ、「ジェミニ」「マナス」「ジェンスパーク」などそれぞれのツールの特徴と活用方法について実践形式で学びました。

AIは、使いこなすことが出来れば業務の効率化や発想の広がり大きく寄与することがよくわかりました。特に重要なのが「指示の出し方」で、「具体的な条件設定」と「対話による修正」を重ねることで、より質の高い回答を得られることが分かり、「議会質問の作成にも大いに活用すべきだ」との宮本先生の言葉に励まされました。

しかしながら、その利便性とともに注意点も学びました。ちょうど、セミナー受講日の前日に、愛知県犬山市の市議会議員がAIで作成した議会質問に疑義が生じ、質問を撤回した、という事件が報道され、この事例を引きながら、AIはあくまでも補助的なツールであり、最終的な判断と責任は人間が担うことが重要であることを強く認識しました。

AIは、適切に活用すれば非常に有効な手段となる一方で、使い方を誤れば信頼を失う可能性もあります。特に、AIのハルシネーション（誤情報・もっともらしい嘘）には注意が必要であり、必ず公式資料等で情報の事実確認を取ることが大事だ、と肝に銘じました。

また、「時代は絶対に逆戻りはしない。これからはAIを使えないと生き残れない。アナログとAIの両方を使える議員が10年後も生き残る！」との宮本先生の言葉が強く胸に響きました。

私にとっては苦手な分野ではありますが、実践を積み重ね、正しく活用して、質の高い議会活動につなげていきたいと思います。

更に、議員のAI活用による弊害を防ぐための倫理委員会や研究会、講師

を招いての勉強会の開催も早急に検討していきたいと思います。

3 財政問題の取り上げ方

財政分析では、決算カードの正しい見方と活用方法について学びました。特に標準財政規模を基準に ①「実質単年度収支」で赤字・黒字の実態を把握 ②「財政調整基金」で自治体の貯金残高を確認 ③「経常収支比率（人件費）」で人件費の硬直化をチェック ④「一時借入金利子」で資金繰り悪化の兆候を察知 の4つの視点から自分の自治体の財政状況を分析することが重要であると学びました。

ここを押さえることにより、財政の健全性や課題を把握することができ、財政状況を的確に読み解いたうえで、根拠に基づいた質問や提案を行うことの重要性を改めて認識しました。

また、AIに自治体のデータを読み込ませることで、多角的な財政分析のプロセスを自動化することができ、より深い洞察を得ることができることも学びました。

更に、夕張市の財政破綻についても、時系列で見ることで、破綻の警告指標は事前に存在していたこと、議会が定期的なチェックを怠り、問題を先送りしていたのが最大のリスクであったこと、などがよく分かり、議員の責任は大きい、と痛感しました。そして、財政問題は早期発見・早期対処が鍵であることも改めて、肝に命じました。

網走市も一時期は580億円もの借金を抱えていたものの、インフラ投資の抑制や職員の不補充による人件費の削減、民間委託の推進等により、実質的な借金は300億円を切るところまで来ましたが、新庁舎建設費の返済の本格化に加え、今後も公共施設の老朽化による建て替えや学校やスポーツ施設の再編など取り組まなければならない事業が続いているため、財政の分析力を高め、心して財政のチェックをしていかなければならないと痛感いたしました。

4 人口問題の取り上げ方

人口減少問題については、その現状と影響を正しく理解することから始まり、「日本の人口は増えない！」との想定でまちづくりをしていくことが大事である、と学びました。

例えば、人口減少→税金収入減少→市債発行増加→病院の25%をつぶさないとダメな時代が来る→税金を払っている人しか受診できないようにする、など様々な施策にメスを入れなくてはならないかもしれない。

東京の合計特殊出生率が全国最低な理由は、家賃が高いから→絶対に地方の時代が来る→①コンパクトシティ化②DX化を推進してオンラインで受診も仕事もできる環境を整備③地域ブランドを海外でも売れるようにネット環境を整備するなどの施策につなげていくことが重要。

また、若者の流出問題では、RESAS（地域経済分析システム）を活用したデータ分析の重要性を学びました。

転入、転出、移住といった人口動態の実態を把握し、産業構造を可視化することで、地域の現状と課題を客観的に把握することができます。感覚ではなく、データに基づいた分析により、説得力のある政策提案が可能となることを実感しました。

網走市の課題でもある人口減少問題、若者の流出問題もRESASを活用

した分析をもとに持続可能な地域づくりに向けた具体的な取り組みを進めてまいります。

記録写真

